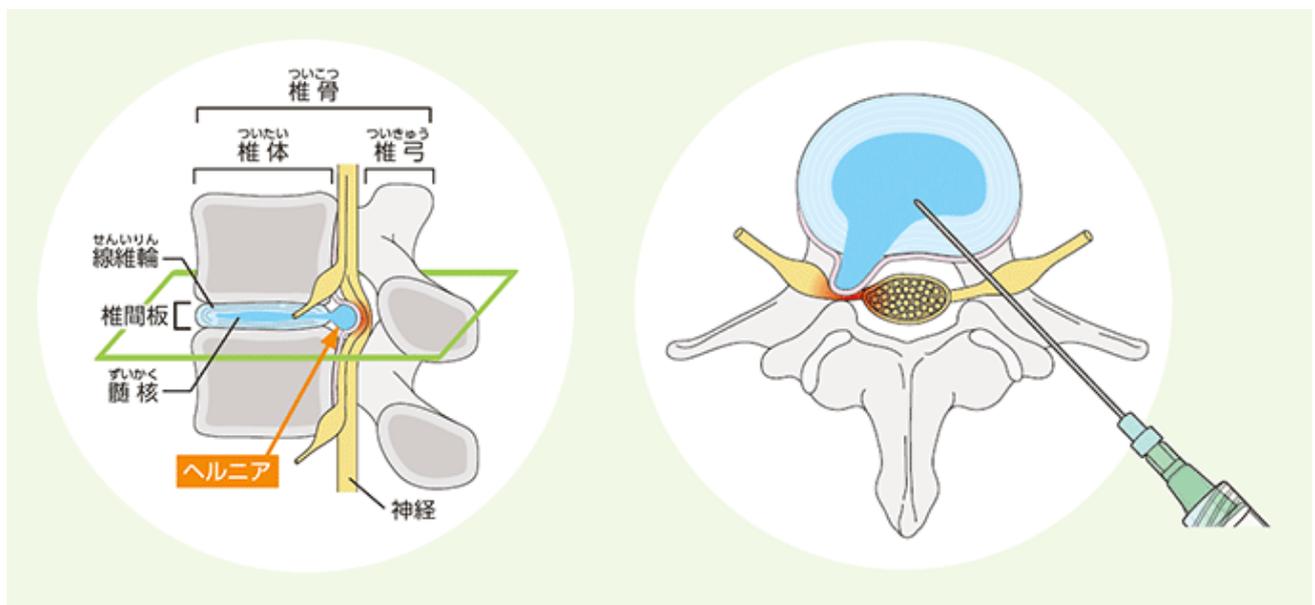


腰椎椎間板ヘルニアに対する新しい治療法 「ヘルニコア」をはじめました。

腰椎椎間板ヘルニアの治療方法は従来、保存療法と手術療法に分けられておりましたが、椎間板内酵素注入療法（ヘルニコア）は、保存療法と手術療法の中間に位置される新しい治療法として最近注目されています。



当院では腰椎椎間板ヘルニアに対して、

薬やブロック注射などの保存療法で改善しない場合、ヘルニコアによる治療を積極的に導入しております。

局所麻酔で治療が可能であり、手術と比較して患者様への身体的負担が小さい治療となっています。

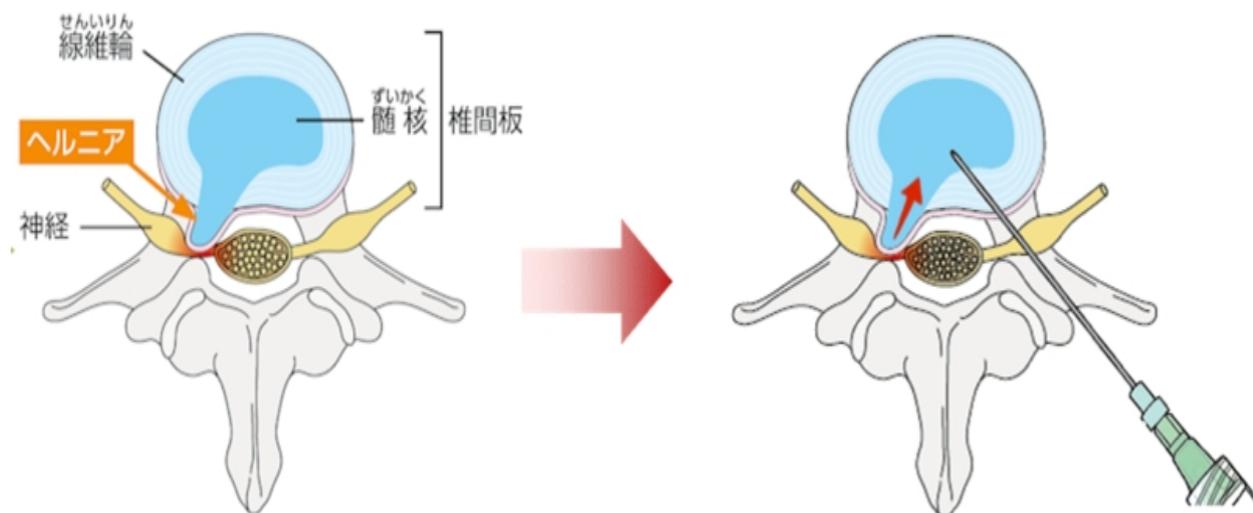
また入院期間も手術に比べ短く、病状などによりますが、最短で1泊2日程から可能です。

なお入院期間につきましては担当医師にご相談ください。

椎間板内酵素注入療法（ヘルニコア治療）とは？

ヘルニアを起こしている椎間板の髄核内に直接注射する治療法です。有効成分であるコンドリアーゼという酵素の働きで、髄核の構成成分であるプロテオグリカン分解させ、水分による膨らみを適度にやわらげます。

その結果、ヘルニアの神経への圧迫が軽減し、痛みやしびれの改善が期待できます。



ヘルニアの治療手順

当院では、ご年齢やリハビリの有無などによりますが、最短で1泊2日程からの入院で治療を行っています。

(※退院時期は担当医にご相談ください)

手術日に入院していただき、手術室で治療を行います。

手術台にうつぶせで寝ていただき、

X線をみながら該当する椎間板に針を刺して薬剤を注入します。

手技自体は順調に進めば消毒から麻酔も含めて15～30分程度で終わります。注射直後は薬による副作用がないかなどを確認するために、しばらく安静にさせていただきます。

手術翌日以降、副作用がないことを確認し退院となります。

① レントゲン台に横になり 体の位置を調整します。

X線でヘルニアのある椎間板を確認しながら、針を刺す場所を決めます。



② 針を刺す位置を消毒します。

③ ヘルニアのある椎間板内に針を刺し、 ヘルニアを注射します。

④ しばらく安静にします。

薬による副作用がないかなどを確認をします。

⑤ (医師の診察を受け) 問題がなければ帰宅できます*。

*医師の判断で1～2泊の入院となる場合があります。

ヘルニコア治療の注意点

1. アナフィラキシー（急性アレルギー発作）や針を刺した部位の痛みなどが副作用として挙げられますので、アレルギー体質の方への適応は慎重な検討が必要です。
2. 過去に本治療剤の注射を受けたことがある方は、アレルギーが発現する可能性が高くなるためヘルニコアの再投与はできません。また、効果が不十分の場合には、手術が必要となる場合がございます。
3. ヘルニアの形や出ている位置によりヘルニコアの適応とならない場合もございます。

費用について

ヘルニコアの治療は保険適応ですが、3割ご負担の方で40,000～50,000円と高額な治療法となります。あらかじめご了承ください。

まずはご相談ください

つらい腰のヘルニアの症状で悩んでいる方は、まずは診察を受けていただき、担当医にご相談ください。

（症状によっては椎間板内酵素注入療法が難しい場合がございます。予めご了承ください。）